

アジア太平洋海事大学 Maritime Academy of Asia and the Pacific (MAAP)
エドゥアルド・サントス校長が海員組合本部を表敬訪問

全日本海員組合の運動の歴史を説明

5月26日、アジア太平洋海事大学（MAAP）のエドゥアルド・サントス校長とゲルロ・エルチコ学生主任が本組合を表敬訪問し、国際船員労務協会の綾清隆会長、池田良一常務理事、寺西尚平マニラ駐在の同席の下、田中伸一組合長代行、齋藤洋総務局長との懇談を行った。

懇談においては、はじめに齋藤総務局長から、組合本部会館の改修の経緯や計画に関する概要について説明した後、紹介動画を視聴していただいた。

続いて実際に本部会館の各フロアを見学し、設計の特殊性や海事思想の普及に資するべく一般開放エリアに込めた期待など、詳細な説明により共通理解を図った。

見学を終えたエドゥアルド・サントス校長は「かつて訪れた組合本部会館との違いに驚いた。全面的な改修を終えて、まだ間もないこのタイミングで訪問できたことに感謝したい。また、一般に向け海運や船員職業、そしてJSUについて啓蒙する施設・設備についても素晴らしいと思った。この組合本部会館が、若い人が船員職業を志す一つのきっかけとなれば喜ばしく思う」と感想を述べた。

田中伸一組合長代行からは「この度の訪問に感謝する。全日本海員組合の100年の歴史のうち、約40年はフィリピンと手を携えて活動してきた。今後もこれまで築いた強固な連帯をさらに発展させ、共により良い船員社会の構築を目指していきたい」と表敬訪問への謝意を示した。

MAAPは1998年に、フィリピン船舶職員部員組合により設立された4年制の商船大学で、2009年には本組合と国際船員労務協会により日本商船隊に乗り組む士官候補生養成のためのキャンパス（JSU-IMMAJキャンパス）を設置している。

毎年200～250人程度の船員を輩出するMAAPは、日本の外航海運において重要な役割を果たしている。また、MAAPと日本の商船系高等専門学校の学生は、MAAPの航海実習船 Kapitan Gregorio Oca 号を軸に、国際船員労務協会主催「日比商船学生異文化交流プログラム」を通じての交流・交友を重ねてきている。

「海員だより」